

## 2022年度業務実績報告書

提出日 2023年1月18日

1. 職名・氏名 准教授・加藤裕美
2. 学位 学位 博士、専門分野 地域研究、授与機関 京都大学、授与年 2011年
3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>東南アジアの文化と社会</b> （2単位） 1・2・3年次配当
② 内容・ねらい 東南アジア各国の現代的状況を自然、生業、国家、民族、開発、環境問題、食文化など様々な視点から読み解く。東南アジアは日本から遠い地域ではなく、日本の生活のなかにも東南アジアとつながりのある人、モノ、現象があふれていることを理解することをねらいとした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 環境問題や新型コロナウイルス対策など現代的なテーマを盛り込んだ構成とした。教材は、記入式のレジュメとパワーポイントを併用し、要点が分かるよう工夫した。教員がフィールドワークで得られた情報や教員自身が撮影した動画、写真、体験談を多く盛り込むことにより、学生の関心を喚起するよう努めた。民族衣装を体験する機会を設け、異文化体験ができるように工夫した。 毎回小テストをおこない、授業内容について学生の考察を記入させた。これにより、文章力や論理的な記述力の向上をはかり、学生の理解状況を把握した。授業の冒頭で前回の復習と、小テストへのフィードバック、そして質問への回答と解説を行った。授業の後半ではグループワークを行い、各学部の専門と東南アジアを結び付けたテーマを設定し、調べ学習を実施した。 JICA 青年海外協力隊 OB をゲストスピーカーに招聘し、多角的な視点から東南アジアの文化と社会への理解が深まるよう工夫した。毎回トピックに関連する書籍や雑誌を紹介し、授業後も学生がさらなる学習を行う手助けとなるよう配慮した。オンライン授業の際は、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業を行い、学生が円滑に受講できるように努めた。
【ゲストスピーカー1件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 <b>観光学</b> （2単位） 1・2年次配当
② 内容・ねらい 観光現象を文化・社会・経済的など、様々な視点から分析する力を養う。福井や日本、世界の事例を学ぶことにより、観光の効果と課題について検討した。また、観光への地域社会の関わり方について学び、持続可能な観光のあり方を考えることをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 観光学の理論と事例の両方を学べる構成にし、事例では、福井県内、日本、世界とバランスよく学べるように留意した。統計データや新聞記事を用い、客観的に観光現象を理解できるよう試みた。学生が県内22の観光スポットでフィールドワークを実施し、調べた結果をグループでスライド発表を行った。 記入式のレジュメとパワーポイントを使用し、スライドには図表や写真を多く載せた。毎回、観光についての短編動画を視聴することにより、視覚的な理解を助けた。講義が一方的にならないよう、調べ学習や、グループディスカッション、ポスター発表、フィールドワーク、グループでのスライド発表を行い、アクティブラーニングに力を入れた。観光連盟や、旅行会社、エコツーリズム事業者など観光に携わる方たちをゲストスピーカーに招聘し、様々な視点から観光現象を学べるように取り組んだ。

毎回小テストを実施し、授業内容について学生の意見を記入するようにした。これにより、文章力や論理的な記述力の向上をはかり、学生の理解状況を把握した。授業の冒頭では前回の復習と、小テストへのフィードバック、そして質問への回答と解説を行った。授業に関連する書籍を紹介し、授業後も学生がさらなる学習を行う手助けとなるよう工夫した。

【ゲストスピーカー 3件】

【フィールドワーク 県内22か所】

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

宗教学(2単位) 1・2・3年次配当

② 内容・ねらい

世界の宗教現象を通して人間の考え方の多様性を学び、宗教や信仰が人間の生き方に与える影響について解説する。世界の多様な宗教の基本事項について理解できること、また異なる宗教を信仰する人々の生き方を理解し、尊重できるようになること、宗教という視点から現代社会や自分自身を客観的に考察できるようになることをねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

統計データを用いることにより、現代日本人の宗教、あるいは世界の宗教について客観的に理解できるよう工夫した。仏教、神道、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥ教など、主な宗教の基本事項を解説するとともに、宗教紛争や宗教のグローバル化など、現代社会に関係するトピックを選び、学生の関心に沿うように構成した。三国祭保存振興会、勝山左義長祭実行委員会、福井県立歴史博物館の学芸員などをゲストスピーカーに招き、福井の地域社会における信仰と祭りの特徴について講義を行った。

大学周辺の12集落でフィールドワークを実施し、その他県内外の多数の宗教施設でフィールドワークを行った。穴埋め式のレジュメとパワーポイントを併用し、パワーポイントには写真や図表を多く載せた。毎回短編動画を1~3本視聴することにより、視覚的な理解を助けた。

毎回小テストを実施し、学生の意見を書かせることによって、文章力と論理的な記述力の向上を図った。講義が一方的にならないよう、小テストの結果は、次の回でフィードバックを行った。各回の授業に関係する参考図書を回覧することにより、授業後の復習の手立てとなるように工夫した。

【ゲストスピーカー 3件】

【フィールドワーク 大学周辺12集落、県大外の宗教施設多数】

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

導入ゼミ(はじめての東南アジア)(1単位) 1年次配当

② 内容・ねらい

東南アジアについて興味のあることを発見し、それをグループで調べ、他者にわかりやすく伝える技術を習得することをねらいとした。そのなかで、大学生活に必要な基本的スキルである、文献検索、レジュメ作成、レポート執筆、パワーポイントを用いた発表、ディスカッションのしかたについて学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

少人数制ゼミであるため、グループディスカッションや学生同士のグループワークの時間を多く設けた。前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。

福井市菜崎漁港でフィールドワークを実施し、東南アジアと福井の地場産業の関係を体験できるよう努めた。また、フィールドワークではゲストスピーカーによる講義を行った。後半の調べ学習では、学部の専門に沿って、学生の関心を深める幅広いテーマを選択できるように工夫した。今年度は、環境問題、観光、食文化、民族衣装についてグループ学習を行い、グループでスライド発表を行うことによって、コミュニケーション能力の向上を目指した。民族衣装を着たグループ発表は学生に好評であった。

【ゲストスピーカー 2人】

【フィールドワーク 1件】

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

教養ゼミ(野生動物と地域社会)(1単位) 1年次配当

② 内容・ねらい

このゼミでは、狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用など、人間の生活環境の変化、自然環境の変化などと野生動物の関係について学ぶことをねらいとした。対象の調査方法、文献の検索方法、調査結果のまとめ方、レジュメやスライドを使った発表のしかたなど、大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得をおこなった。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用など身近なニュースを用いて身近な問題として捉えられるように工夫した。統計情報を用いて、森林環境の変化や鳥獣害の変動について客観的に理解できるように工夫した。また、行政、猟友会、獣肉加工施設事業者など、ゲスト講師による授業を行うことにより、多様な視点から野生動物と人間の関係を理解できるように工夫した。

授業の半ばには、美浜町新庄地区でフィールドワークを行い、罟猟、止め刺し、解体、ジビエ料理体験、鹿の角を利用したワークショップ、鹿の角や肉の商品化のアイデアを話し合うグループディスカッションを行った。未来協働プラットフォーム事業補助金に応募し、採択された。フィールドワークの様子は福井新聞に記事として掲載された。ほぼ毎回グループワークやグループディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力や課題解決能力の涵養をおこなった。授業の最後に自己評価と相互評価を行うことにより、達成度を確認した。オンライン授業では、Google Classroom による資料の配信と、Zoom によるリアルタイム授業を行った。ブレイクアウトセッションを多用することにより、学生どうしが円滑にコミュニケーションをとれるように努めた。

【ゲストスピーカー 4人】

【フィールドワーク 1件】

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

学術ゼミ (民族学) E (2 単位) 2・3 年次配当

② 内容・ねらい

このゼミでは、人間の文化と社会について、様々な視点から学ぶことを目的とした。授業は、フィールドワークと文献購読により進め、どのテーマを調べるかは、受講生の希望によって決めた。人間の文化や社会について、身近な福井の地域社会から学べるように工夫をした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

少人数制ゼミであるため、学生自身の興味関心を調査に結び付ける形で進めた。今年度は越前陶芸村と嶺北特別支援学校でフィールドワークを実施した。学生が調べるテーマを設定し、フィールドワーク先を選定し、インタビューの素案を作成し、ヒアリングを実施し、調べた結果をポスターにまとめて発表するという形で課題探求型の授業を実施した。その過程で、図書館の文献調査や、論文調査をして下調べを行った。少人数だからこそ、各自のテーマについて深いディスカッションができ、学生の研究課題を深めることができた。

【フィールドワーク 2件】

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等

学術ゼミ (民族学) F (2 単位) 2・3 年次配当

② 内容・ねらい

このゼミでは、人間の文化と社会について、様々な視点から学ぶことを目的とした。授業は、フィールドワークと文献購読により進め、どのテーマを調べるかは、受講生の希望によって決めた。人間の文化や社会について、身近な福井の地域社会から学べるように工夫をした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

少人数制ゼミであるため、学生自身の興味関心を調査に結び付ける形で進めた。今季は芦原の自然を愛する会、北潟国有林、越前市みんなの食堂、恐竜博物館で、フィールドワークを実施した。学生が調べるテーマを設定し、フィールドワーク先を選定し、インタビューの素案を作成し、ヒアリングを実施し、調べた結果をポスターにまとめて発表するという形で課題探求型の授業を実施した。その過程で、図書館の文献調査や、論文調査をして下調べを行った。少人数だからこそ、各自のテーマについて深いディスカッションができ、学生の研究課題を深めることができた。

【フィールドワーク 3件】

<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  <b>日本の文化と社会（2単位） 1・2・3年次配当</b></p>
<p>② 内容・ねらい  オムニバス講義の1回を担当した。「人と動物の多様な関係」と題し、文化人類学の基本的な考え方から人と動物の関係を読み解く視点について理解することをねらいとした。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  オムニバス講義で題材となっている「もののけ姫」を読み解くにあたり、人と動物の観点からどのように作品を理解できるのか講義を行った。古代日本における歴史から現代におけるまで日本人と野生動物の関係について授業をおこなった。授業ではグループディスカッションの時間を取り、学生が自分の意見を他の学生と議論できる機会を設けた。記述式のレジュメとパワーポイントを併用し、レジュメには重要事項を書き込めるようにし、要点が分かりやすくなるよう工夫した。調査中に撮影した写真や動画を映し、工夫した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  <b>比較文化論（2単位） 1・2・3年次配当</b></p>
<p>② 内容・ねらい  オムニバス講義の1回を担当した。「マレーシアの狩猟採集民の文化」と題し、東南アジアの文化、そして熱帯雨林で暮らす狩猟採集民の文化について講義を行った。比較文化論的な視点を獲得すること、そして狩猟採集民の文化の特徴について理解することをねらいとした。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫  授業の冒頭で文化とは何か、文化を比較することの意義、比較文化論的な視点を獲得することによって何が分かるのかについて講義を行った。記入式のレジュメとパワーポイントを併用し、要点が分かりやすくなるよう工夫した。フィールドワークで得られた情報や教員自身が撮影した写真、動画、体験談を多く盛り込むことによって現実的な関心を喚起するよう努めた。刺青、婚姻の慣習、養子の慣習などから、日本とマレーシアの狩猟採集民の文化を比較させた。</p>
<p>(2)その他の教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）に応募し、「福井の地域社会における獣害対策とジビエの利用促進」（代表者）として採択された。県内企業とコラボレーションする PBL 型の授業を実施した。その結果が福井新聞の記事に掲載された（2022年11月8日「県大生獣害を考える―鹿解体見学や商品考案」福井新聞25面）。</li> <li>・福井市茶崎漁港、美浜町新庄地区、あわらし富津地区、など地域と連携した課題探求型授業を実施した。</li> </ul>

#### 4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>	
①著書 加藤裕美 「境界の可視性と不可視性—マレーシアにおけるインドネシア人労働者の現地化のマイクロヒストリー」王柳蘭、山田孝子編『マイクロヒストリーから読む越境の動態』国際書院：東京 Pp. 161-189.	【1本】
②学術論文（査読あり） 加藤裕美、祖田亮次「マレーシア・サラワク州におけるインドネシア人労働者のインフォーマル化——在地アブラヤシ小農との関係から」『福井県立大学論集』第59号	【1本】
③ その他論文（査読なし）	【本】
④ 学会発表等 加藤裕美「ボルネオの狩猟採集民シハンの移動と生業」国立民族学博物館共同研究会『アジアの狩猟採集民の移動と生業—多様な環境適応の人類史』第1回研究会。国立民族学博物館。	【1件】
⑤その他の公表実績 加藤裕美「世界から福井へ、福井から世界へ」福井県立大学学術教養センター編『福井県大のリベラルアーツ』福井県立大学出版部：福井 pp. 42-43. 加藤裕美「福井と東南アジアのつながり」福井県立大学学術教養センター編『福井県大のリベラルアーツ』福井県立大学出版部：福井 pp. 59-60. 2022年11月8日「県大生獣害を考える—鹿解体見学や商品考案」福井新聞（授業紹介）25面	【2本】
<b>(2)科研費等の競争的資金獲得実績</b>	
<b>【学外】</b>	
科学研究費補助金若手研究「マレーシアにおける定住した狩猟採集民が現代的社会問題を克服するための実証的研究」（研究代表者）2019年度-2022年度	
科学研究費補助金基盤研究(B)「ボルネオの原生林保護と先住民コミュニティの自律的生存が両立する持続的管理の条件」（研究分担者）2019年度-2023年度	
未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版 PBL）「福井の地域社会における獣害対策とジビエの利用促進」（代表者）2022年10月-2023年3月.	
国立民族学博物館共同研究「アジアの狩猟採集民の移動と生業——多様な環境適応の人類史」（共同研究員）2022年10月-2026年3月. 代表：池谷和信	
同志社大学人文科学研究所共同研究「コミュニティの維持をめぐるつながりと境界の動態に関する比較研究-人の移動・交渉・葛藤」（共同研究員）2022年4月-2025年3月. 代表：王柳蘭	
<b>【学内】</b>	
学術教養センター競争的資金（Z 枠）「福井の里山における森林資源を利用した生活の記録」（研究代表者）2022年4月-2023年3月.	
学術教養センター競争的資金（Z 枠）「漁村の消えゆく正月神事アーカイブ」（研究代表者）2021年4月-2023年3月.	
<b>(3)特許等取得</b>	

(4)学会活動等
日本文化人類学会 会員 東南アジア学会 会員 日本マレーシア学会 会員 International Society of Ethnobiology 会員 International Society for Hunter Gatherer Research 会員

5. 地域・社会貢献活動


6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
全学委員会 ・教育研究委員 (2022年4月～現在)
学術教養センター内委員会 ・教務・カリキュラム委員 (2022年4月～現在)
(3)学内行事への参加
前期履修登録相談会 (4月4日) 後期履修登録相談会 (9月26日)
(4)その他、自発的活動など